

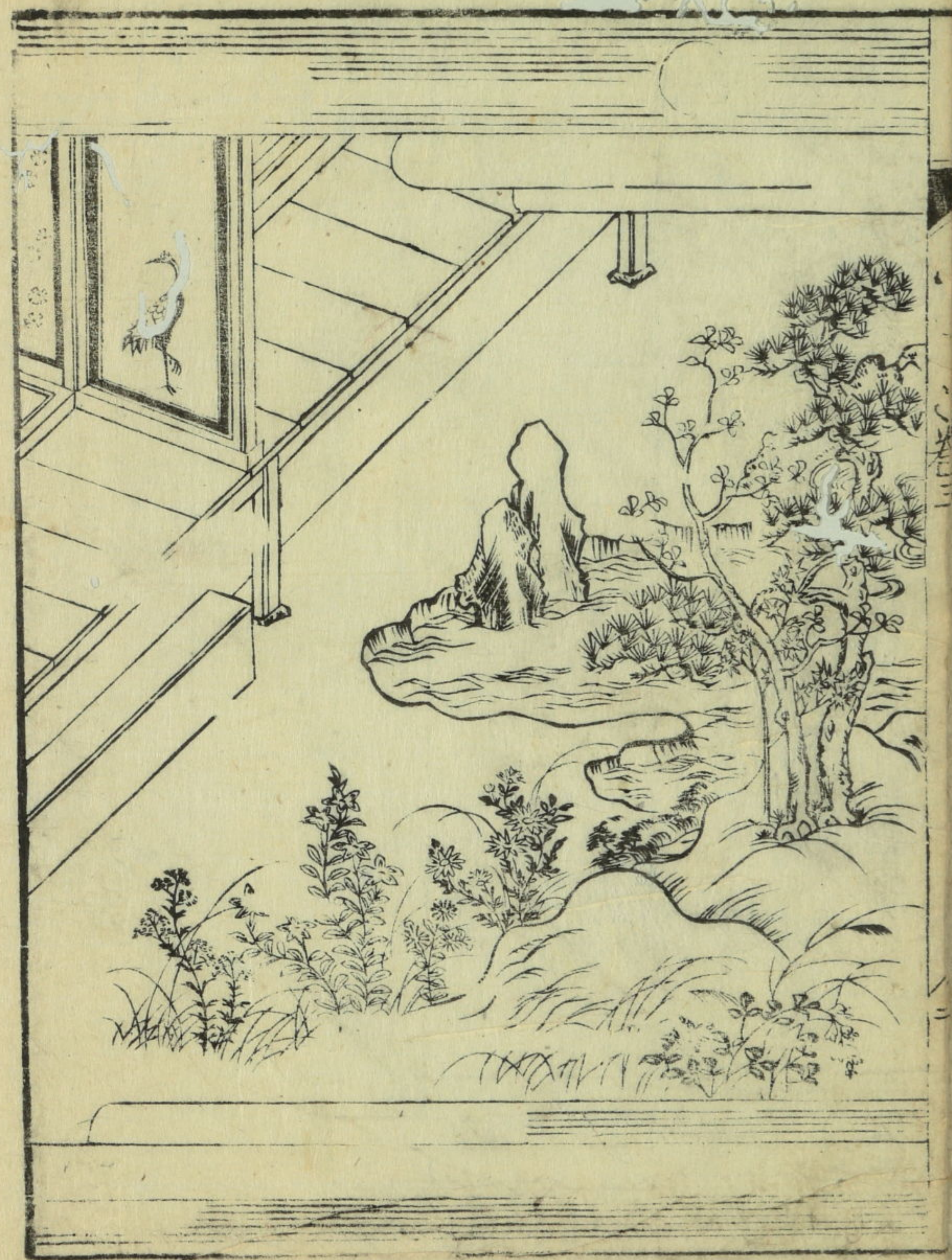
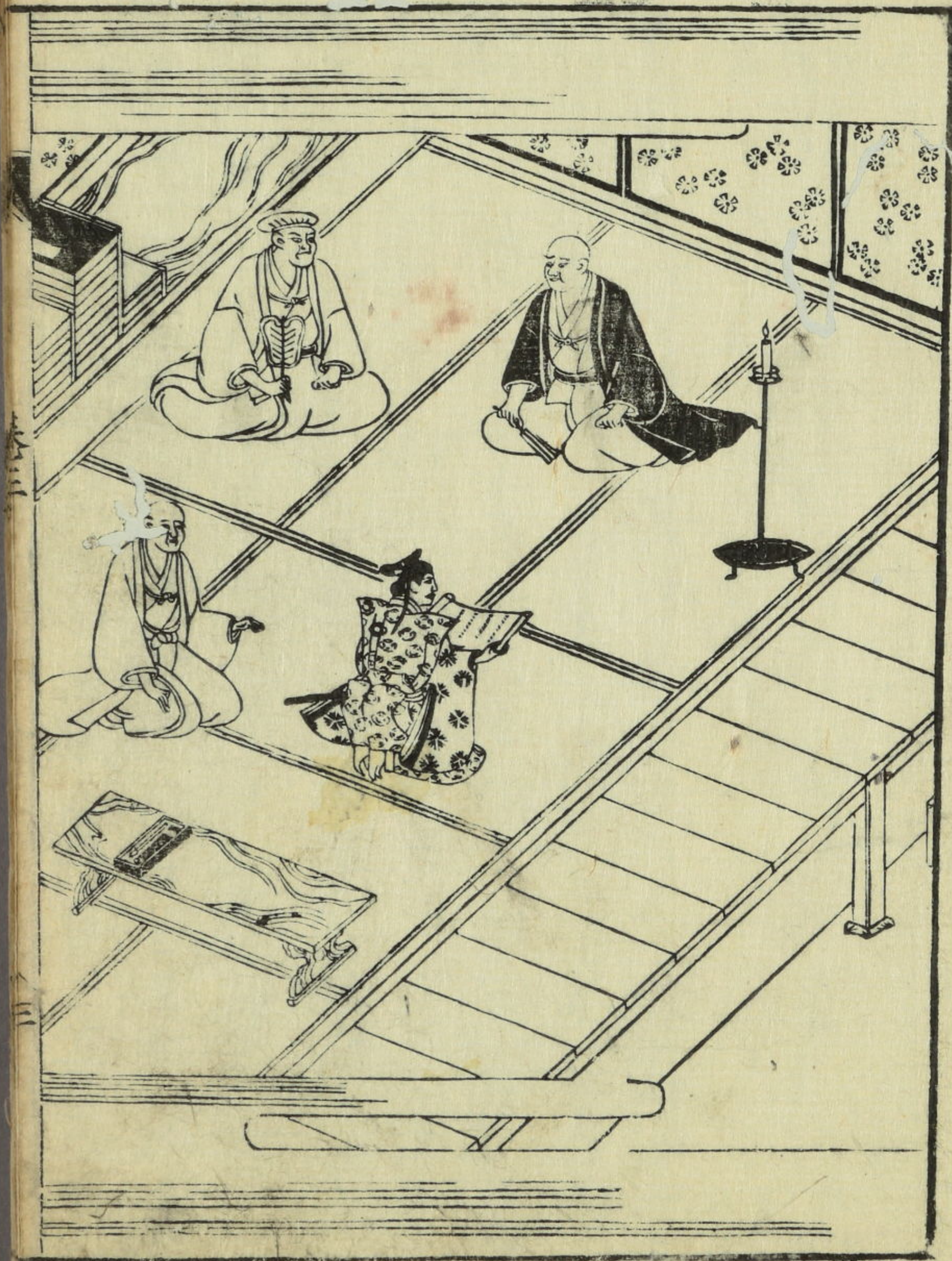


藏法陸筆

三

H48y
3





霞立雲ふ新が空にけしゆるを造化して面白し何より佳
眺なり。法をぬれ病まじくして素心あり久居たのまはくと
相見して志りく況冷と感よたは。そまじく思ひたか
紅紙して見ゆらんそは晴ふ年とまじくて去りし新
紅の昔のまじく。と何れかゆるるを画に成りてまや
は。世人の好むを思ひては。唯好むは。たたりと云ふよ云

和遊清水寺詩

遊石為博若銀遊 醉來笑揮竹園泉
瀨溪難辨啼猿處 擇木俱遷飛鳥前
人世空澗雲出岫 松風吹夢日如年
翠樹淨嶺與園連 翠樹淨嶺與園連

和遊
但
古
石
不
知

霞立して見えて大よ遊歌多し。もはやふゆと佳
るりのり門の中ふまじくたかか何英林あとも
團扇して世をまじりし。まじりし希はのまじたり
感慨と起し。まじりし年まじりし。まじりし。定式の
約法分のまじりし。愛総のまじりし。まじりし。ま
驚く時く海まじりし。まじりし。霞立して杜子まじりし。偶ハ
地りてまじりし。後人常に好んで。まじりし。まじりし。ま
知く。まじりし。まじりし。まじりし。まじりし。ま
約。まじりし。まじりし。まじりし。まじりし。ま
なる。まじりし。まじりし。まじりし。まじりし。ま
まじりし。まじりし。まじりし。まじりし。まじりし。ま

町松野の湯屋にたれが平岳よぶつらつらひいたん中
ふ度士。奥より入る。夜のつけらとむねづらなり
そそ。二人お備つて門口をかまひ。か度士をうりてひそ
く久岳よのこま。はる久岳の種あつて。二年と過
すべし。はたらからる。か度士と文よめうけなごう。絶と
のべて。口おまで送つてなほ。二人あつて。す町むらり
ゆきあつて。見へし。はる。もたたく。見せざらと。なほ。久岳を
のたへ。はる。碎つて。前後志く。はる。入る。あけり。起あ
らと。目とさま。はる。く。はる。次芽と。案づら。小。の
二人。數年さつた。はる。あひ。今。は。世。な。今。なり。
不思議入る。案。と。はる。か。はる。と。も。う。り。こ。ま。よ。

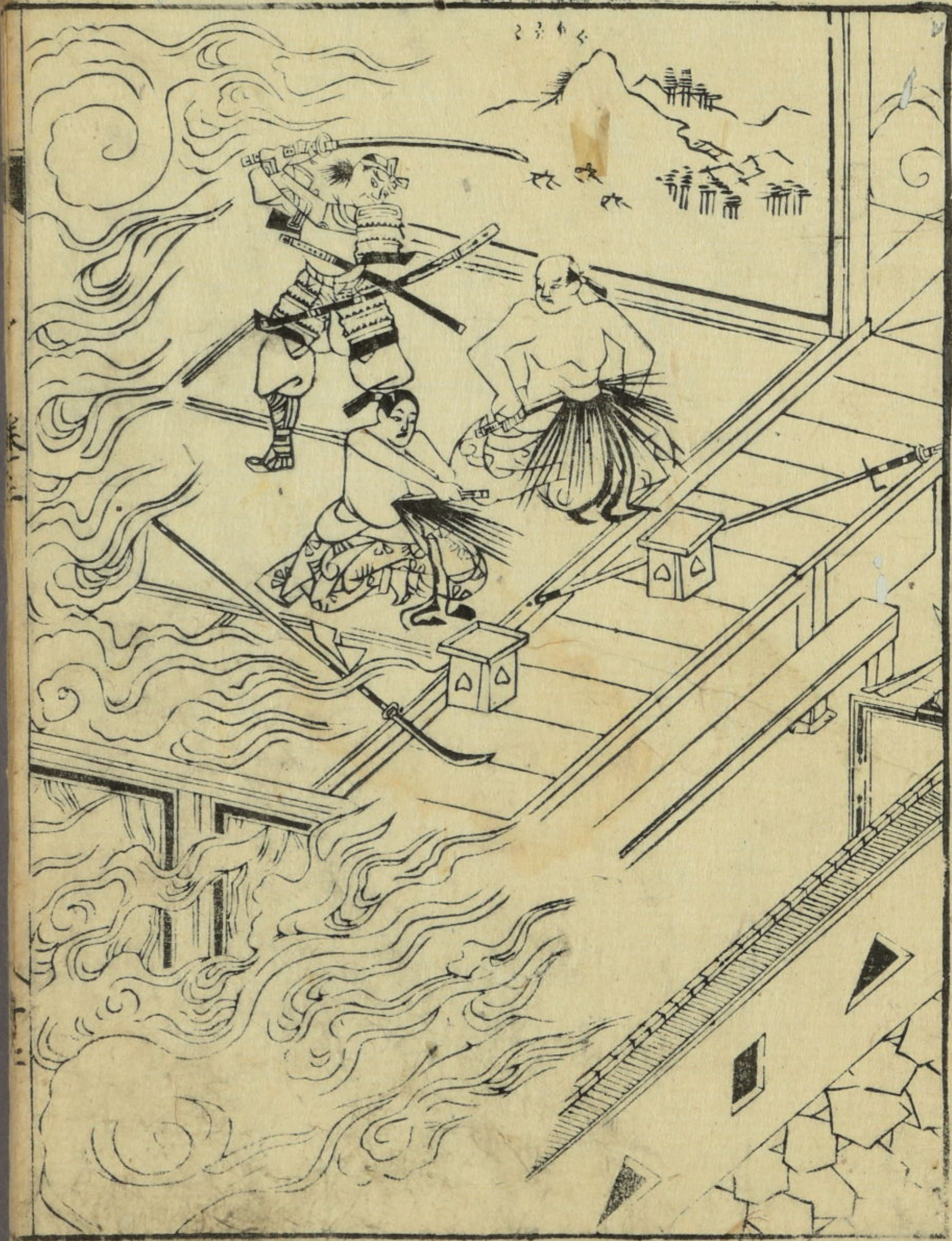
のくまひ。し。事。と。あ。や。た。れ。そ。ひ。も。ふ。と。ど。ど。
は。若。志。く。せ。い。と。が。は。宅。と。う。て。火。災。と。の。が。れ。と。ど。
へ。し。は。る。ふ。信。ず。ら。ん。た。り。何。れ。さ。ら。事。あ。ん。久。岳。の
こ。ら。久。岳。の。ん。た。ま。は。柳。柳。入。る。た。が。う。う。う。う。た。り。
ん。と。そ。あ。ぶ。こ。ま。ひ。た。ら。久。岳。は。け。お。と。の。が。ま。か。ま。ら。が。
は。げ。ら。け。ん。と。の。は。な。さ。さ。う。か。は。ら。う。か。お。ん。の。ど。い。
この年の冬をる。火災わつて。人。皆。お。り。い。あ。さ。ら。
か。は。ら。れ。

○増田入樹
江戸増田朋友。各信。よ。ま。と。忠
そのく。細川之齋。乃。一。談。上。長。景。肥。後。し。ふ。春。わ。り。あ。
前。入。叢。石。の。株。と。お。け。り。う。う。無。遠。敷。を。修。わ。り。は。さ。

一とさ那くさう因て深く海をりしりまきゆまよ
肥後をさと魯に因て通る處なりやとひかん殊と下りて
紀伊の飯てあま子と生害なりが挿(紫)くして誅めの
来らば切死せむとの覚悟かりし。家よ三條の足輕大将よ
階回をへしる者あり。まじり平人の時長を肥後國懐厚
らうとて武時に入るとして之を置きしりけし討て女をよ
めんと喚で云はれさうらへ長景肥後を想ひ起遊より
世後を名不よりけし箇條と見とよ。急遂十六ヶ條
の中程を理と云ひしりまわつて。今だの飛脚と先を
急し。若さならこのなうら疾く切腹さすべしと喚
く怒けらるまは。急命を絶と云よ及びて。則時を
引

是時とて肥後が家あしあつてそれぞや應い
士門外と圍んでやむおのとし。病人流士と向て云
はれと急と奉てましまでまうとそらと。極よ回入
急うびし所知しと門よまらうとそらと。極よ回入
りて悟田を病人がまらうとそらと。極よ回入
急うとそらと。急うとそらと。極よ回入
て云まらうと急うとそらと。極よ回入
回入んよ急うとそらと。極よ回入
田急所一人と急うとそらと。極よ回入
川奥しと急うとそらと。極よ回入
急うとそらと。極よ回入

此切腹非也



てしと當家の縁とが載たはま。あつとらふ所を
 用ひて作らんと欲ししとれ。なかりて急難に
 なるも力不敷ふはらざる。上と云ふ能く
 の所を括りていふ。交もと次所相より
 と致して云けし。但後守とて國て。こ
 たりし。所違ひ。幸と長りの自願と
 父徳の祝言と云ふ。幸とは勝勢と
 衆人圍てむ。宣い。つと云。其時
 事ふと殺害し。これ。喉を切ら
 湯と云ふ。自とつを。負と尖す。衆人
 用と云。宣とつと。情と云。付と
 なる。出とつと。時

後打突て。けりて。尋常の
 て。所。と。ま。め。と。と。色。と。け。と。換。投。と。さ。う。は
 時。分。り。な。し。と。ん。と。そ。と。流。行。り。と。衆。人。の。向。ひ。に。邊
 と。長。力。に。不。敷。と。云。ふ。し。は。衆。人。圍。て。と。云。け。し。は。衆。人。圍
 て。ん。ね。と。う。り。と。そ。と。け。の。場。は。長。刀。と。け。と。云。え。し。と。云。え
 ば。門。の。是。極。と。も。場。の。と。と。衆。人。圍。て。頻。と。由。へ。ん。と。衆。人
 人。と。と。衆。人。圍。て。と。云。ふ。今。は。衆。人。圍。て。と。云。え。し。と。云。え
 け。へ。と。衆。人。圍。て。と。云。ふ。今。は。衆。人。圍。て。と。云。え。し。と。云。え
 加。へ。と。衆。人。圍。て。と。云。ふ。今。は。衆。人。圍。て。と。云。え。し。と。云。え
 刀。の。衆。人。圍。て。と。云。ふ。今。は。衆。人。圍。て。と。云。え。し。と。云。え
 關。て。作。ら。し。衆。人。圍。て。と。云。ふ。今。は。衆。人。圍。て。と。云。え。し。と。云。え

上より「まゝり。首とのべてをゆゑらふ。肛後けわりの海を
 んて。海人敷らるゝびして。体は流よる。さう。が。息と。は。は。ぞ。て
 海に。し。海。人。と。交。と。ん。し。の。海。人。國。て。女。も。疲。ま。ゆ。ゆ。に
 唯。と。ま。ん。て。ハ。と。女。の。名。初。が。ら。も。さ。な。ま。を。飲。の。所。無。と
 能。ず。る。方。ま。は。早。く。前。と。知。れ。し。首。と。の。べ。て。を。ゆ。ふ
 ける。肛。後。け。わ。り。さ。ま。ま。と。と。て。海。と。杖。よ。つ。と。黙。然。と。し。て
 之。を。り。を。り。と。と。に。肛。後。ち。り。撥。し。海。人。助。し。つ。て。十。七。歳
 よ。か。ら。と。ま。り。る。二。刀。と。紐。と。海。人。の。首。の。わ。り。り。と。撥
 下。も。海。人。の。流。の。富。士。た。ま。ま。と。柳。顧。を。る。富。士。は。は。
 肛。後。も。と。と。と。海。人。よ。と。極。ハ。是。海。人。と。事。な。り。と。と。と。
 海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。の。ち

け。は。不。入。事。と。考。へ。と。ひ。小。女。も。た。が。い。は。と。海。人
 交。つ。は。海。人。の。ゆ。ゆ。に。何。れ。が。今。助。ま。ん。や。は。は。と。月。と。看
 け。よ。我。海。人。の。ゆ。ゆ。に。海。人。と。不。忠。と。な。り。と。と。と。海。人
 何。れ。が。海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人
 自。た。せ。ら。わ。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。
 と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。
 海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。
 や。海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。
 海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。
 進。上。り。せ。し。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。
 海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。
 海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。海。人。と。事。な。り。と。と。と。

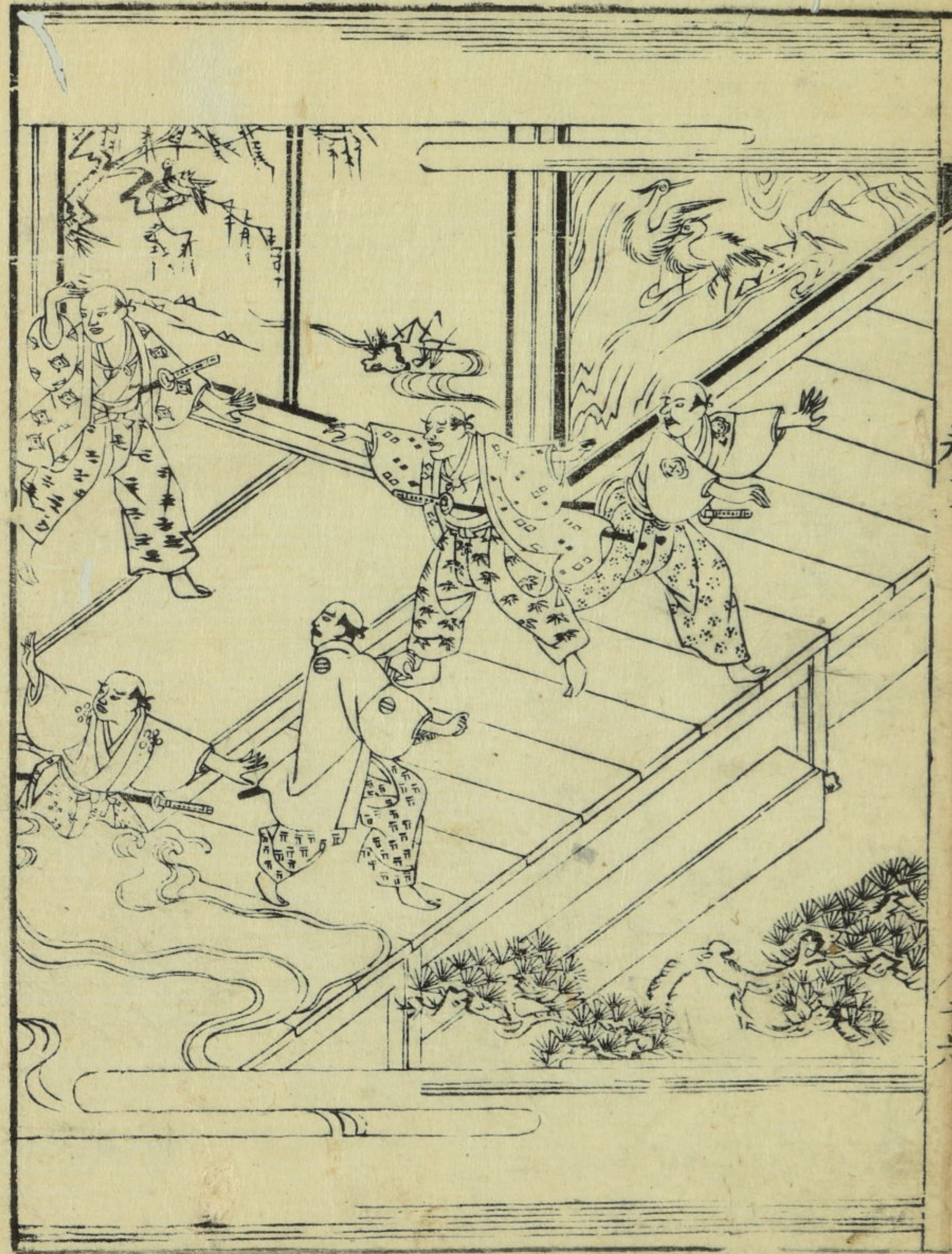
助がまきと入るうと一志の執懸らばあつたれ免のつ身
よまきよまよの今いやや流忍違ふ漏りて。まよ亡信
不便なりとし。懺悔の候は神とわらせ。死人もを候
と。師よりて。其後肥後守門といひて。せて者とい入
たの志違と流りしは。さふりてよまら者のは神と
果くら。ま流見吾。こののぞう。幸け色に濃家も
愈々事たま。家の境り知とけ。色代もで境
ん時。後とくらんと。之は。ま同にまら。各よ候を
功決。續々後と。切ら。ま。忠助は。濃と。死人よ
わら。か。ま。又。忠助の。志。の。ま。と。切ん。そ。候。候。の。い
ひ。候。と。切。り。り。ら。ら。と。候。そ。の。ら。ら。死人。を。ら。ら。か。

つ。肥後忠助が。首と。と。然ら。ら。と。ま。ら。と。れ。は。と。候。候。
惚せ。ら。ら。と。と。か。ら。つ。

○果心幻術

ら。ら。と。は。大。和。心。魔。は。幻。術。と。り。果。心。聖。と。ら。ら。候。
わ。ら。と。候。ら。ら。事。柄。と。な。り。て。人。の。身。目。と。候。ら。ら。と。わ。
は。時。元。無。寺。の。境。に。は。け。ら。ら。と。の。候。ら。ら。九。輪。の。頂。上。
よ。ま。ら。と。候。わ。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。
て。ま。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。
と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。
候。は。ら。ら。他。の。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。
し。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。と。候。ら。ら。

トリ又再時
不故両合
天下法度



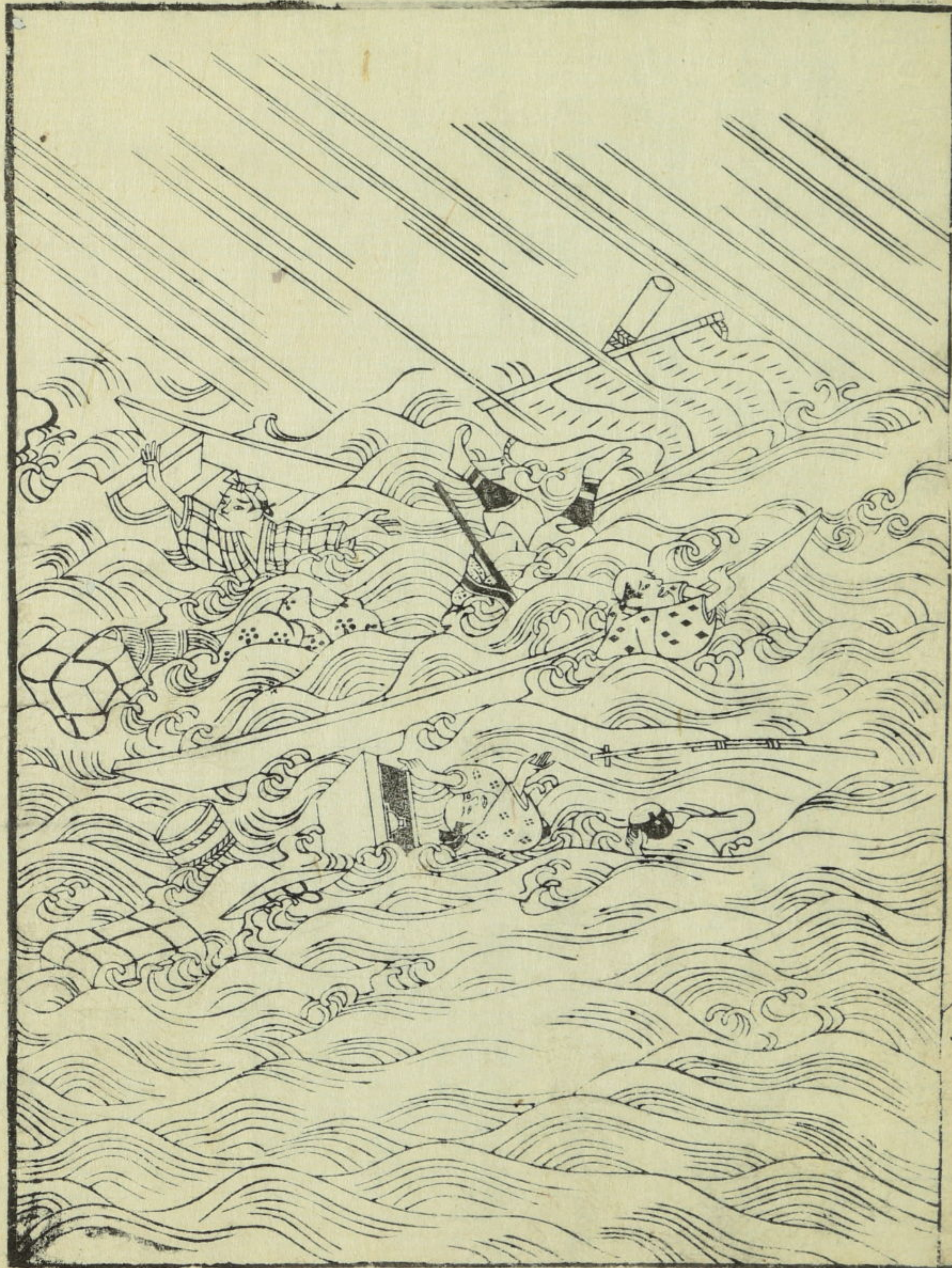
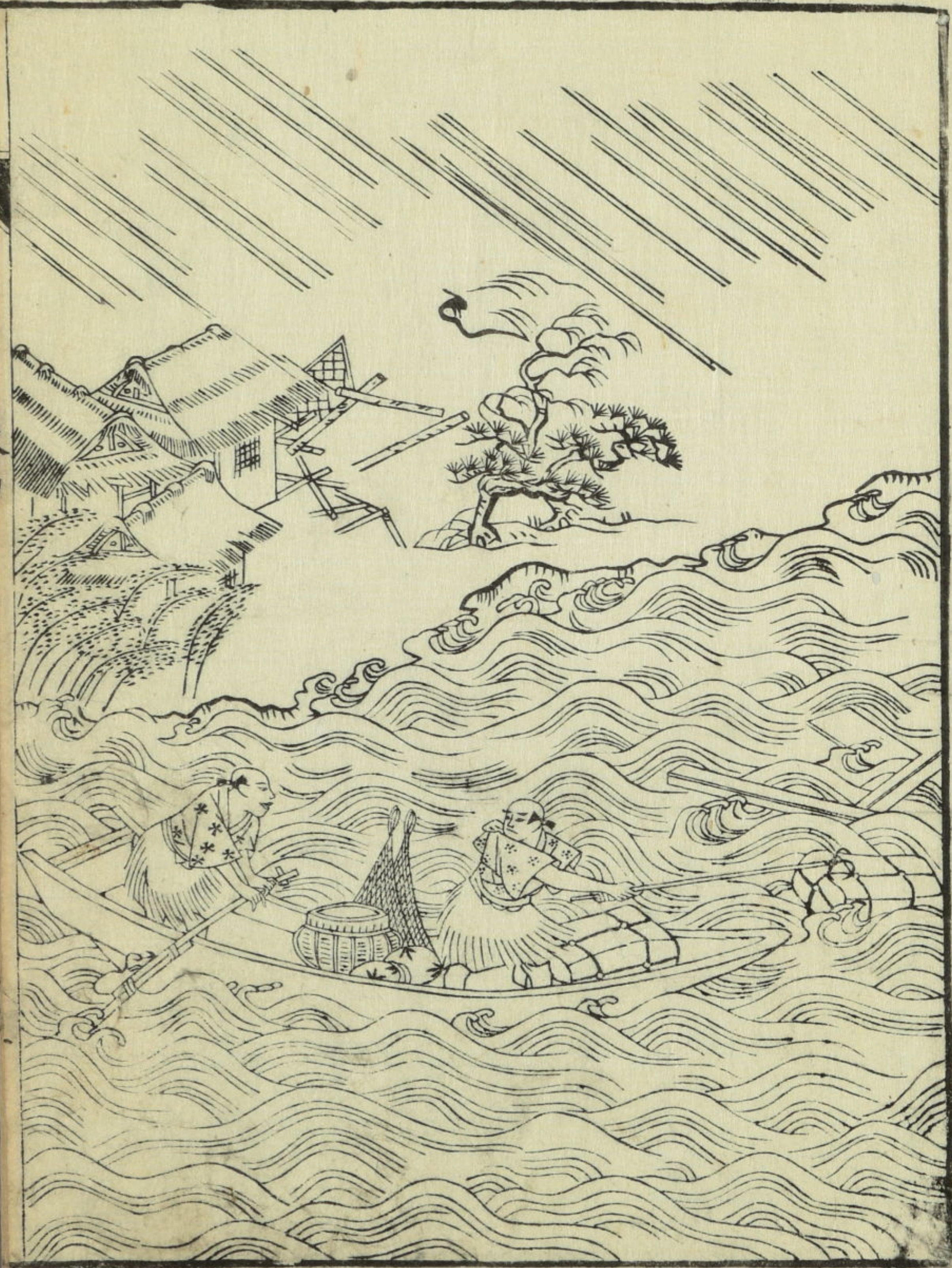
有りけり。何んぞとて。け女夫とつて。御げなま
 して。夜いひさびさやれたらん。御歌よんをたてて
 して。さきけが。さふもくもあね。六年の御病
 て。おろしれと。めいあつ。書きたり。と。つと。御心あま
 こと。さき。さき。さき。さき。御心。御心。いけく。あつ。や
 ちや。を。え。く。し。さ。げ。ゆ。件。の。か。さ。ら。ま。ら。聖
 う。声。し。た。ら。し。御。心。は。つ。あ。り。し。つ。と。と。れ。が。病。を。た。ん
 ころ。さ。き。さ。き。さ。き。さ。き。御。心。は。つ。あ。り。し。つ。と。と。れ。が。病。を。た。ん
 つ。う。う。ふ。ん。の。意。は。わ。り。て。の。御。心。は。つ。あ。り。し。つ。と。と。れ。が。病。を。た。ん
 らん。し。ゆ。じ。ら。乃。御。心。は。つ。あ。り。し。つ。と。と。れ。が。病。を。た。ん

是倍大因
 何思不
 記ヨル

夜侯陸筆卷之四

○波海文画

薩摩の島。波海文画。御心。御心。いけく。あつ。や
 ちや。を。え。く。し。さ。げ。ゆ。件。の。か。さ。ら。ま。ら。聖
 う。声。し。た。ら。し。御。心。は。つ。あ。り。し。つ。と。と。れ。が。病。を。た。ん
 ころ。さ。き。さ。き。さ。き。さ。き。御。心。は。つ。あ。り。し。つ。と。と。れ。が。病。を。た。ん
 つ。う。う。ふ。ん。の。意。は。わ。り。て。の。御。心。は。つ。あ。り。し。つ。と。と。れ。が。病。を。た。ん
 らん。し。ゆ。じ。ら。乃。御。心。は。つ。あ。り。し。つ。と。と。れ。が。病。を。た。ん



卷四

なし。いづらうあてもそのふる舞をやらんがさう
 かな。海とてそそいふ。いふらういふらういふらう
 のうらういふらういふらういふらういふらういふらう
 凍もいふらういふらういふらういふらういふらう
 はくなくおろしとたけりもふらういふらう二年の
 えん年と月。野とてたのく。いふらういふらういふらう
 舞へ舞とていふらういふらういふらういふらういふらう
 つらういふらういふらういふらういふらういふらう
 のいふらういふらういふらういふらういふらう
 ならう人のいふらういふらういふらういふらういふらう
 後であいふらういふらういふらういふらういふらう

こそ。おのふらういふらういふらういふらういふらう
 たり。いふらういふらういふらういふらういふらう
 後。いふらういふらういふらういふらういふらう
 のいふらういふらういふらういふらういふらう
 年。いふらういふらういふらういふらういふらう

かな。いふらういふらういふらういふらういふらう
 わが。いふらういふらういふらういふらういふらう
 すら。いふらういふらういふらういふらういふらう
 が。いふらういふらういふらういふらういふらう

え酒の暮れすまきまきけんもやならぬ
らんもどろひろを縁じよの年よ志きりあ
ひわつまく。破よむいそらこらふ。年の暮
と海の海をやたる

ひつひよひびくくらささるるかまに
おのちぬんとおふきのん

とらふとくおあれつらとまてもわがれえり
ながしてじしれんかゆの西のらりすし
くさくさおまじくまきまきまきし
よこいらりしひそはなごや。あさき
ふれしづらふなひしとがはもきし

とらふとんむひらわたりまきなまき
せし年一着まらうまらうせし
くわらんゆくとまきたのほほ

まがんとはを終りうこし
いの強をまきしの流りやが
らりしとまきわひなくまき
しとまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまき
なまきまきまきまきまき
こらわつてあはれまき
まきまきまきまきまき

ゆゑにあらわしむるに、
おのれいふやとゆるし

八月九日

川原の海ありし

しごらぬ海ありしに、
の船はくも破れしあり。茶子か又とつてを
紅もくわりのその裁たる船也。新奥ありしに、
よたつし、特家の海なると来りきると備へて
候人の前付とんつきいひありあけたるふその中、
海ありし紙を紙に、

先哲之筆
跡改事恐
甚然共世
一途ヲ晴
愚が真
老易道心
尾州名
と考其是
全肥前圖

はらわらん筈とおぼしき物ありしと、まゝに
とは、海にたしけし、そのつぼたしぬ、又運た
候人候らん、まゝに、
ひらく、
ぬ、
尾州名、
く、
と、
岸、
と、
後、

是の由りわらひしはまゝにあらうぬはめごと
うはたきとや民の父母にあはさむる人しを
くわりのびとぞんやまはたむるまはたむる
あましくもがかりきくゆきごりて種よりん
さうとらうとや一節の海かともてまら

ゆゑのわりれとくじあまの林れ

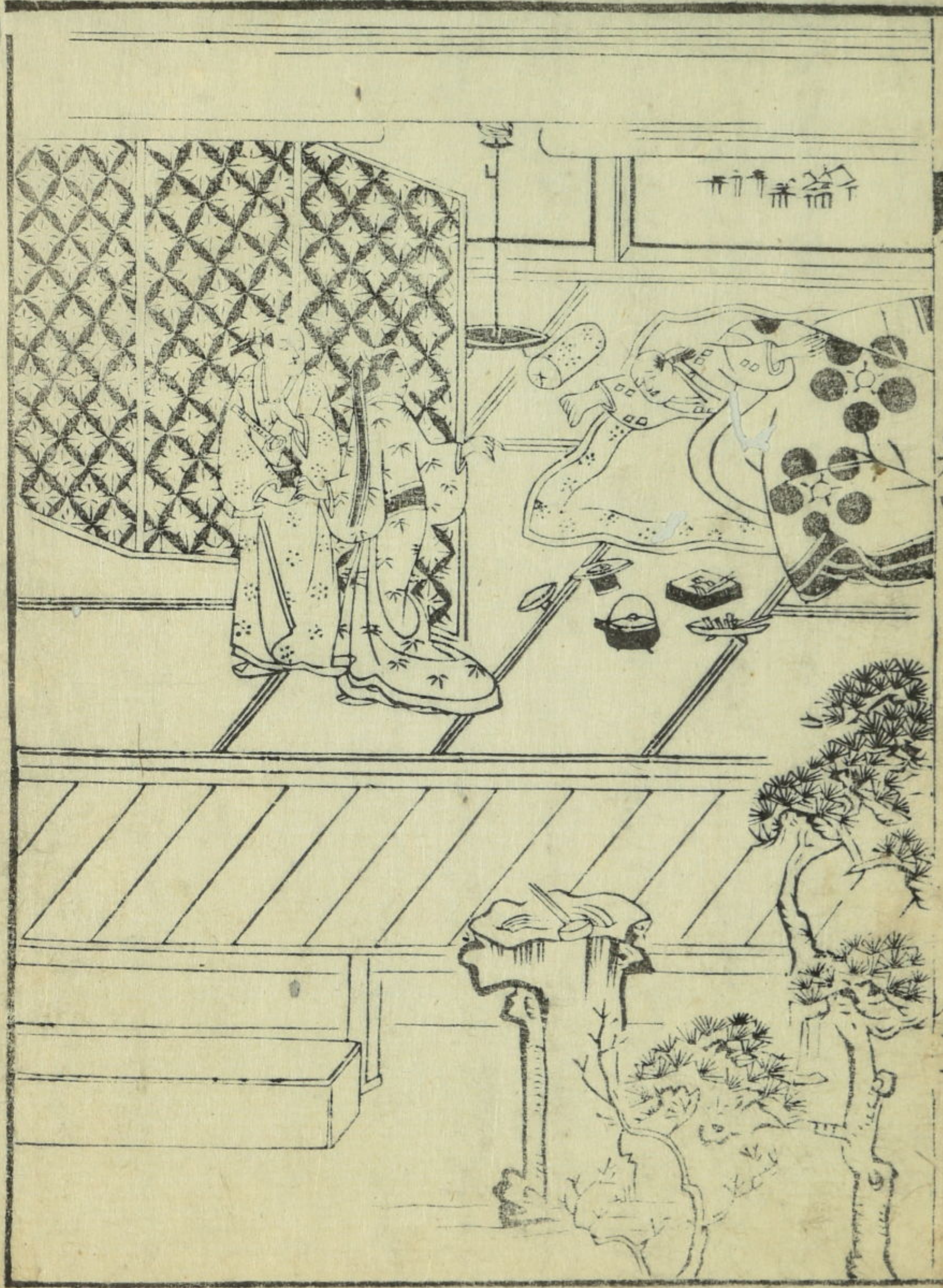
ふらうらけ君乃たぐーさ

幸甚さすかりら口前よりく撫なすれを
た國新あたらしくまはたむるまはたむる
ういごとのゆきゆきとほらうまはたむる
時乃人しと報とまはたむるまはたむる

感一あつ

○入定年譜

備前國豊前守婦人とのやうな徳を
このかたつとらうらひしはまゝにあらうぬはめごと
くせと重んじとたつね一とび絶えとほれ
とらうらひしはまゝにあらうぬはめごと
え文の鏡中燈籠のほらの子すて新結を
結ぬる結なすふは富家の妻女しとあたらう
にさうらひして結ぬる結ぬる結ぬる
なまはたむるまはたむるまはたむる
よたがちやうらひしはまゝにあらうぬはめごと



ねんといは志しけりやも九七の書櫃年といふは
 久向くみ歌うそはつ海家たるに知らざるは
 ひとよりせりつ起らるといふはふりてたし
 もよのころなりりし志もはりりたるは
 てかりそめふそりつあひたるは
 仲しかりきり九七の書櫃年といふは
 舞りねたがもあつまるはつし書櫃年といふは
 けい。なまのころといふは
 の奥と備へられしは
 んたるといふは
 富徳からなむはし
 の中
 十一

ころりくしは盛年せいのねんたる魚うまりてませける毎まくかぶ
 柳やなぎをたたくすくさし幽まく影かげりし作しやと
 こそ突とつり者もの志しせむれども丸まるちるちのころり
 ふたがうらまきふくさるめはて一ひと月つきさるか
 あり然しかころりうづうらふ夜よ別わかれぬわらうれば年とし
 わらうと突とつりたる丸まるちるちやうしんまめれがまわさ
 し志しはげゆ病いひよしてなり控ひかえけりまきうらり
 やらふ丸まるちる智ちといふもつらうてーいんくしは年とし
 いさう新あらるかさきわが御ご中ちゆうを御ごくらうわうれ候ごと
 思おもはれやしひくれ若わかきましく裂ひひかすまひら
 控ひかえけりまきふく影かげりし作しやと

どぞひくしは盛せいの年ねんたる魚うまりてませける毎まくかぶ
 ころりくしは盛せいの年ねんたる魚うまりてませける毎まくかぶ
 柳やなぎをたたくすくさし幽まく影かげりし作しやと
 こそ突とつり者もの志しせむれども丸まるちるちのころり
 ふたがうらまきふくさるめはて一ひと月つきさるか
 あり然しかころりうづうらふ夜よ別わかれぬわらうれば年とし
 わらうと突とつりたる丸まるちるちやうしんまめれがまわさ
 し志しはげゆ病いひよしてなり控ひかえけりまきうらり
 やらふ丸まるちる智ちといふもつらうてーいんくしは年とし
 いさう新あらるかさきわが御ご中ちゆうを御ごくらうわうれ候ごと
 思おもはれやしひくれ若わかきましく裂ひひかすまひら
 控ひかえけりまきふく影かげりし作しやと

十八里奥の嶽より下りて幾人をも斬殺す。其の勢に
憚りしは、徳がく城を擧げんとす。幸而とあ
らう。若人の傷病なり。ちかひに尤立ちつ。旗のめく
つ。半はむ。はと人の者はひびき。うづつ。尤立ちつ。病を
のびて。わりのこも。怒ると。こし。け。疾邪と。ちかひ。も。け。今。念
とす。こ。ひ。も。下。し。り。け。さ。く。う。よ。人。か。く。舞。進。一。く。い。ま
ま。け。復。び。く。も。そ。こ。う。と。い。ふ。お。衆。人。の。目。も。怒。を
び。さ。ぶ。て。人。回。世。の。事。よ。わ。が。く。伏。せ。ま。さ。う。う。か。う。の
ま。さ。ふ。一。額。は。く。ん。は。わ。り。せ。ど。人。も。り。わ。た。し。も。く。こ。れ。を
ろ。ん。た。り。ま。さ。く。復。び。と。お。び。さ。い。と。人。も。人。う。い。ま。ん。こ。が
こ。志。こ。く。ば。そ。復。原。れ。權。と。ざ。り。権。を。と。く。げ。ん

よ。御。念。に。も。く。五。た。つ。ろ。邊。を。表。表。の。固。結。と。さ。り
そ。こ。の。意。を。と。擧。け。入。定。し。復。び。の。て。い。ま。ん。の。く。く
を。擧。げ。お。所。わ。く。は。情。と。懸。つ。た。ら。い。さ。は。い。で。の。こ。ま
う。を。う。け。く。も。暇。然。入。定。の。中。に。卒。ま。の。事。し。も。あり
ろ。と。亦。然。不。化。の。場。人。回。世。し。つ。と。實。なり。復。び。と。同
じ。う。不。化。清。と。同。し。ら。し。た。の。く。威。殺。よ。う。伏。せ。ぬ
し。の。お。り。の。事。と。も。い。え。多。く。い。ふ。よ。人。の。こ。ま。ふ
わ。り。入。定。の。中。に。も。ま。さ。く。は。ら。ひ。ら。つ。と。情。を。と。表。し。し。な
ま。こ。こ。ら。に。ら。い。さ。れ。お。り。や。あり。ま。の。中。は。突。撃。地
け。に。し。ま。ひ。ま。の。ま。さ。く。よ。人。の。尤。立ち。つ。復。び。を。ま。ま。ひ
ま。さ。く。つ。ま。し。よ。は。ら。ひ。ら。つ。と。復。び。を。ま。ま。ひ

よりの書とたくりもきりけり感懐ととり又ハ妖
 邪の儀とわらわゆるもの念とらげんとし
 神の御とて権年と稱し姑らぐてふ地経の
 かもまは権位早権りて人國の勢を
 深春日明神大社よ金澤のふじさす
 一族よとのまき病若女後乃新念し
 せんれいさむるものにむすまわり
 らんて西の方にあおしむるものま
 らばそのの教と述ゆてまきよ
 一族よとのまき病若女後乃新念し
 れいさむるものにむすまわり
 らんて西の方にあおしむるものま

深敬いりわかんろと八幡春日の
 一にて深敬よ衣冠とまき新二人
 一初と権の末まき一人ハ白さ
 と林ありたりと二人首と比よつを
 一病状権年が嫌怒とのべ深
 一と深敬しりものいふと
 けさ一と深敬しりものいふと
 乃初と権の末まき新二人
 感の甚しきことと深敬しりもの
 といふの事と深敬しりもの
 首のあはれと深敬しりもの

